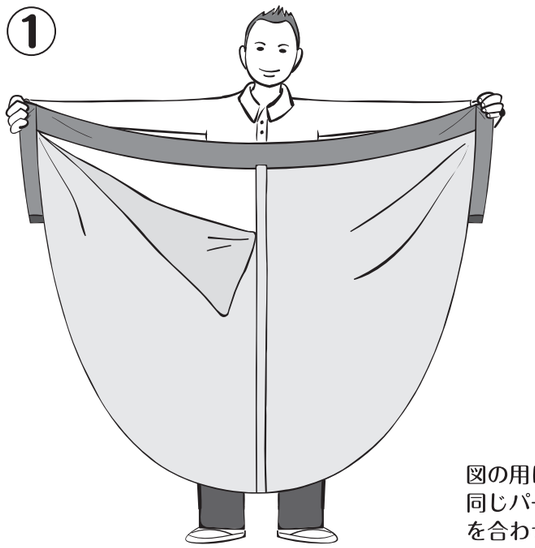
テント本体をたたむ

テント本体をたたむ前に

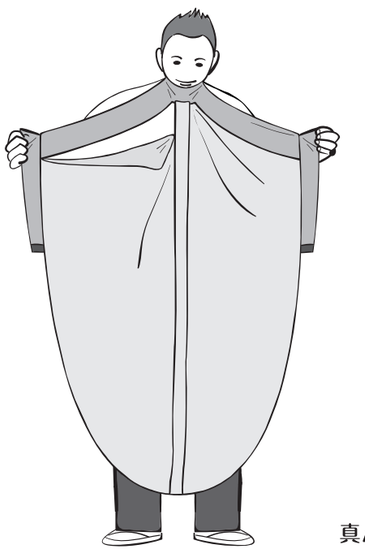
①ペグをぬきます
②シングルウォールテントは防水透湿素材を使用しているため、収納時にテント内の空気を逃しにくい。そのため、入口のファスナーを開いた状態で下記のような方法でたたむことをおすすめします。

①



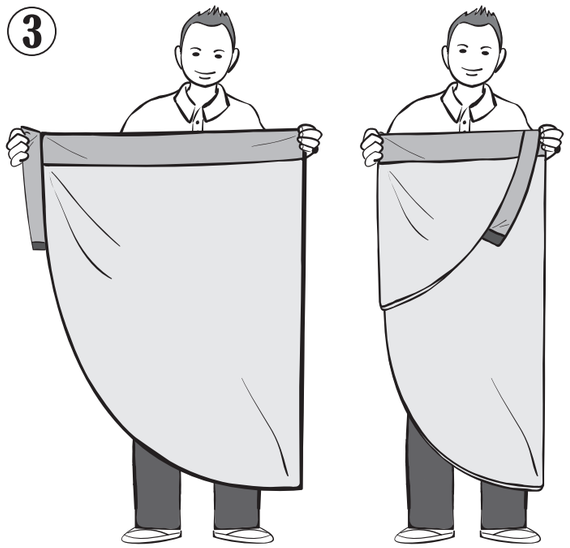
図の用にテント本体の四隅を持ち同じパーツが付いている部分同士を合わせます。

②



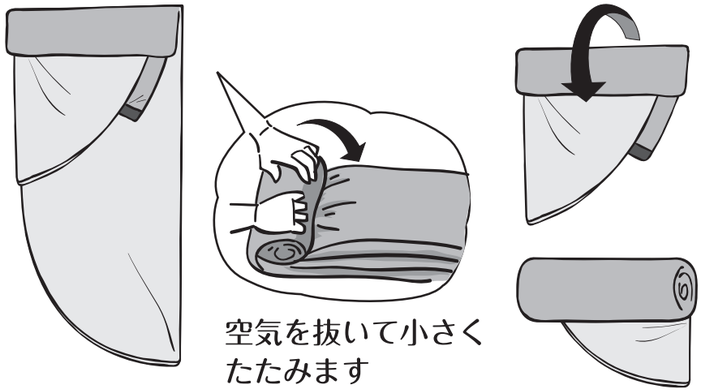
真ん中をあごで抑え半分に折ります。

③



②と同じようにさらに半分に折ります。
これを何回か繰り返して収納袋の長さに合わせます。

④



空気を抜いて小さくたたみます

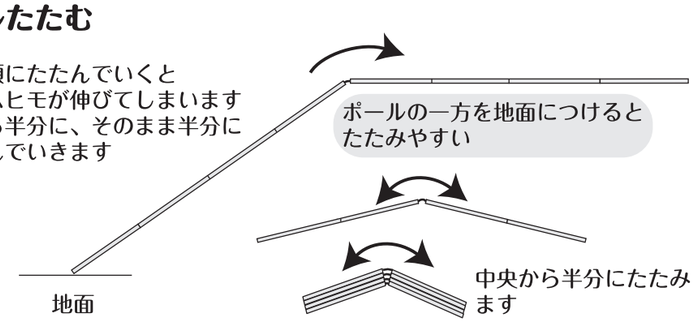
⑤

太く短く収納するときは口ヒモを使います

細長く収納したいときは口ヒモを使います

ポールたたむ

端から順にたたんでいくと中のゴムヒモが伸びてしまいます
中央から半分に、そのまま半分にとたたんでいきます



PUROMONTE 登山用テント
The most versatile upland gear

VB-11・VB-21・VB-21T
取り扱い説明書

テントは野営（屋外での宿泊）で快適に睡眠をとれることを目的として設計されています。設計の前提になっているのは以下のとおりです。

1. 使用人数
VB-11は1人用、VB-21は2人用、VB-21Tは大柄な方の2人用として設計されています。それを上回る人数で使用すると、相対的に通気量が不足し窒息することがあります。

2. 天候
・風　風速が15m/秒を超えると破損することがあります。

・雨　連続雨量100mm/時、または時間雨量25mm／時を超える豪雨では雨漏りすることがあります。なお、より快適な居住性を得るためには、別売のVLシリーズ用フライシートを併用することで前室が得られ、入口を開けた時に雨が吹き込みにくくなり、テント内で不要なものをフライの下に置くことができます。また、別売のVLシリーズ用グランドシートを併用することで、グランド部の耐水性をアップすることができます。

・雪　VBシリーズは防水・透湿・通気性に優れたシングルウォールテントですので雪山においても単体使用が可能ですが、VLシリーズ用の外張を併用することで、より快適な居住空間と保温性を得ることができます。

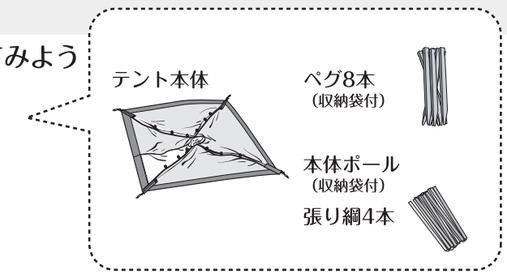
・耐用年数　合成樹脂や合成繊維は保管状況により劣化の進行具合に差が出ます。シーズオフには各部点検をして、問題があれば販売店もしくはHCS社にご相談ください。

3. テント設営
天場で設営することを基本に設計しています。
・地面：テントを設営する地面としては、水平で平坦な所が適してます。凹凸のある所は寝心地が悪いだけでなく、設計したテントが設計通りの形にならないことがあります。

・地形：雨水の通り道になる所（谷状の地形）、雨水がたまる所（くぼみ地）に設営すると、テント内に浸水します。また、風の弱い所を選ぶことも大切です。日差しが強すぎる所では、日中にテント内が高温になります。（夏期にはしばしば70℃を超えます）。

4.テント内での火器使用
小型の火器を使用しても通気量が不足することはありませんが、たいへん危険です。通気の確保、火災時の避難経路などをあらかじめ確認することが必要です。また、火器の取り扱い説明書をよく読み、注意事項をしっかり認識し厳守します。

収納袋の中身を見てみよう



テント各部分の説明

テント本体(壁と土台)
インナーテントとも呼びます。四隅を地面に固定して使用します。
また、柱(ポール)を固定する仕組みを持っています。
本体四隅にあるバックルは、別売のフライシートを使用する時に必要です。

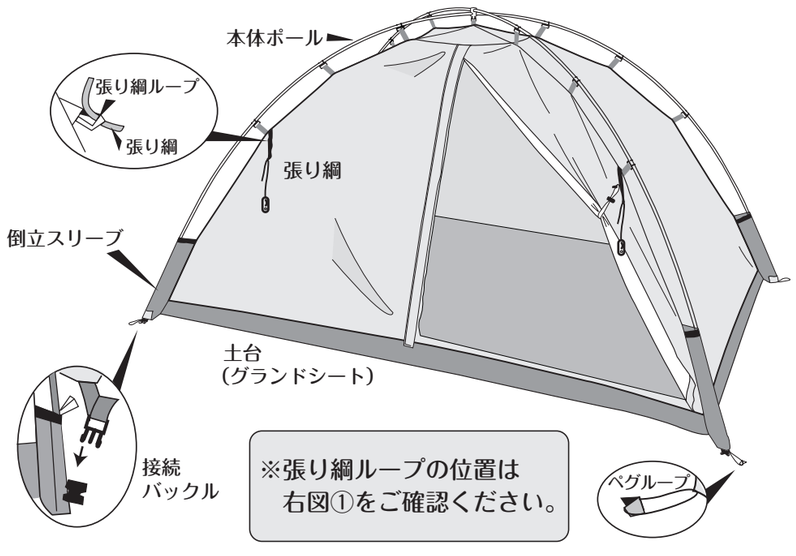
柱
ポールとも呼びます。ゴムヒモの繋ぎ通りに組み立てます。テント本体に取り付けて使用します。

ペグ
テントや張り綱を地面に固定する杭です。

張り綱
主に、風の強いときにテントを安定させるために使用します。一方の端を本体の張り綱ループに結びつけ、もう一方の端をペグで地面に固定します。

テント使用中に起きた過去の事故例

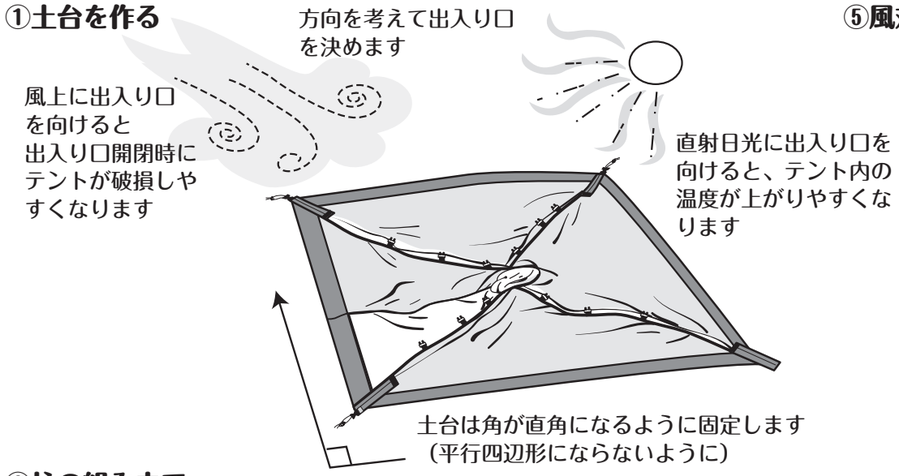
✻崖の直下に設営後、長雨で崖崩れが発生。また、落石や野生動物が落下してくる危険もあります。
✻河原で設営後、上流部の集中豪雨で急激に水増し、野営中の人々がテントごと流されました。また、海岸や湖畔(特に人造湖)なども水位の変化により浸水した事例があります。
✻開けた高地設営後に、落雷が直撃しました。
✻高圧線の直下で設営中、組み立て中の柱(ポール)が高圧線に接触し感電。
✻温泉地のくぼ地に設営後、夜間に無風になり、毒ガス中毒が発生しました。
✻テント内で火器を使用、通気量不足により窒息。
また、火災の発生事例もあります。



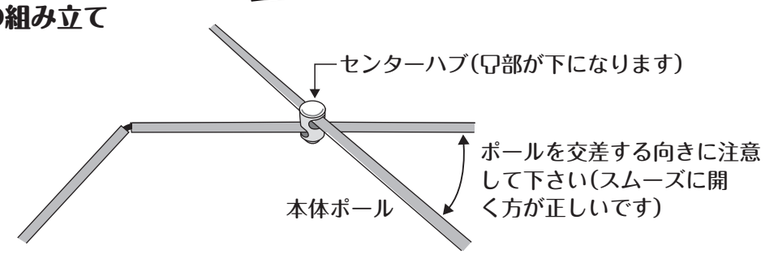
※張り綱ループの位置は
右図①をご確認ください。

製造販売
株式会社 エイチシーエス
東京都中央区日本橋 2-3-19
TEL 03-5200-0770
FAX 03-5200-0771

①土台を作る

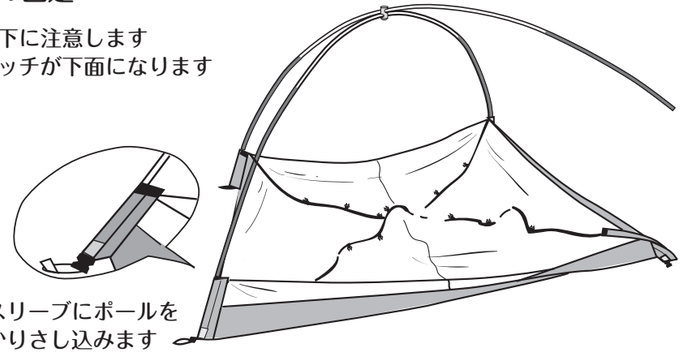


②柱の組み立て

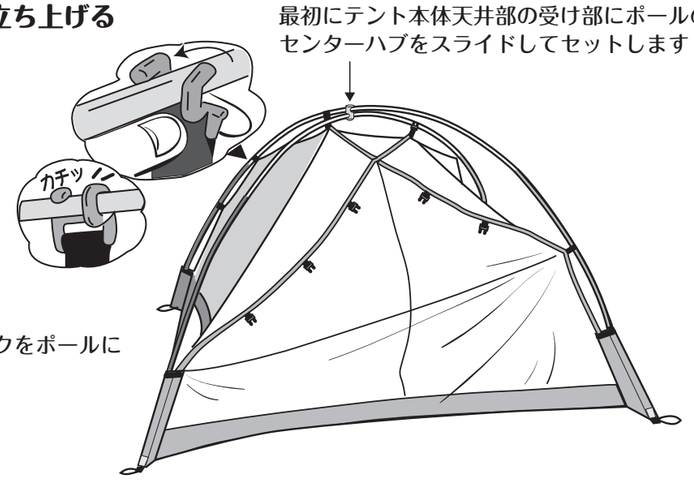


ポールを奥までしっかりはめ込みます
センターハブ部分は若干浮きますが、品質に問題はありません

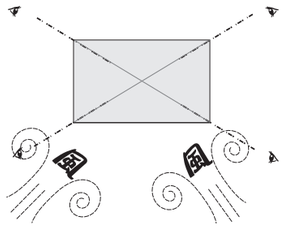
③柱の固定



④壁を立ち上げる

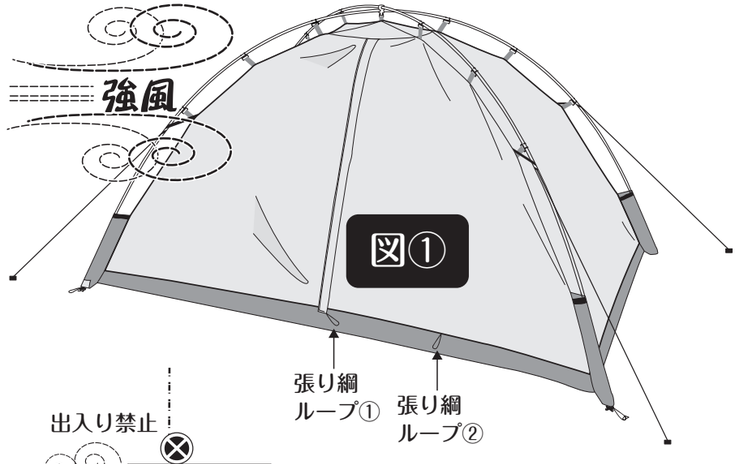


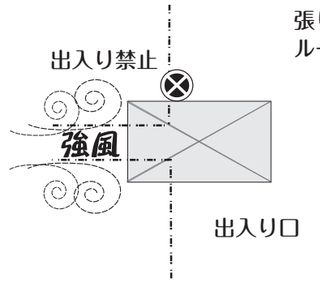
⑤風対策



⑥強風対策

一定の方向から強い風が吹いているときは
風上側に張り綱をとります





張り綱ループ①
晴天時に張り綱で引っ張ることにより通気性UPが可能です

張り綱ループ②
小雨時に入口横ファスナーをオープンして張り綱を引っ張ることで通気性UPが可能です